

事業計画書

事業名	赤ちゃんを亡くされたご家族が安心して暮らしていけるまちづくり
実施場所	沼津市内
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。 2024年 7月 10日 ~ 2025年 3月 31日

◎事業概要

※事業の概要を100~200字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

流産・死産・新生児死、または乳児死を経験されたご家族のためのピアサポート「ペリネイタルロスピアサポートふるーるぴこり」を立ち上げ、該当するご家族が安心して心の内を共有できる居場所づくりを主軸に当事者の悲しみを非当事者を含めたみんなで支え合っていける社会形成のための啓発活動や、お見送り前の家族写真撮影事業を実施。1番つらい”その時”と悲しみとともに生きていく”これから”をサポートできるまちを目指していく。

◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

2021年に厚労省から「流産死産を経験した女性に対する社会的心理支援」を促すよう自治体宛に通知がなされたというが、当事者への社会的心理支援の必要性について社会的な認知は非常に不十分であるのが現状だ。また、この分野において民間支援は地域差が大きいように見受けられる。自身が死産を経験した2023年当時に抱いた気持ちは「社会的な孤独感」「こんな現実が存在することを殆ど誰も知らない」「どうしてこんなに大事なことを誰も教えてくれなかったのか」であった。保健センターで話を聞いてもらうことはできるようだが、当事者同士が地域でつながることが出来る場として近隣の市町にはピアサポートが存在していたが、沼津市にはなかった。

流産死産がそれなりの数存在すること、想いや経験を口にするのも辛い そのような思いをしている人がもしかしたら周りに居るかもしれないこと、それらを認識している人はどの程度いるのか？身近に経験者がいても、タブーとされる話題だからと言って話題を避けて何も無かったかのようにほったらかしで良いのだろうか。そして、私たち当事者は周りから理解されにくい故に、そこから発せられる言葉の数々にいつまで傷つかなくてはならないのだろうか。

それらの思いから、沼津市内を活動拠点に赤ちゃんとの死別を経験された方たちを対象にオンラインや対面でのお話し会を開催することで分かち合いの場づくりや、コミュニティづくりの一助となるように努める。また、地域社会全体で当事者の悲しみを支えていく事を目的とした啓発活動、死産・新生児死の赤ちゃんとそのご家族を対象に家族写真の撮影事業を実施していく。

◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載してください。 ※ハード部門については、12月31日までに施設整備を終え、その後は施設を活用する計画としてください。

毎月第3土曜日	お話し会の開催 Zoom オンライン【7・8・9・11・12・1・2月】 (子ども関連のイベントが開催されないような場所にて) 対面【10・3月】
奇数月の1日	啓発のための Instagram 広告 【7・9・11・1・3月】 広告内容については SNS で当事者約 150 人にヒアリングを実施
6月	家族写真撮影事業 打合せ・カメラマンへ当事者ケアやご遺体の取り扱いについての説明とそのための資料作成⇒7月よりサービス開始予定※
7月	医療機関・沼津市保健センター 紹介カード・ポスターの印刷、 配布・掲示依頼の電話、郵送での発送 近隣市町のピアサポート ご挨拶の DM または LINE
8月・10月	広報ぬまづにてお知らせ 事前に資料作成・申し込み 8月…活動開始とお話し会のお知らせ、10月1日と15日…ピンク＆ブルーリボン啓発週間のお知らせ
随時	公式 line での相談・家族写真撮影事業(スタッフ1名・カメラマン1名) 個別希望でのお話し会の開催 ※家族写真撮影事業について 初年度は沼津市内在住の方限定で募集。当ピアサポートが受付窓口となりプロのカメラマンと一緒に赤ちゃんのご自宅へお伺いする。 「撮影時間 30 分・枚数上限なし・データダウンロード」 価格→17500 円～。(別途駐車場代をいただく場合あり) 当ピアサポートがこの額面から1件につき仲介料 1000 円を頂戴し活動費(主に公式 line 運営費、広告費)に充てさせてもらうこととする。

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載してください。			
<ul style="list-style-type: none"> ・当事者同士が繋がることで社会的孤立を防ぐことが出来る ・当事者・非当事者間でのコミュニケーションの齟齬が減ることで、悲しみを抱えながらも当事者がいきいきと暮らしていける。 			
成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。 お話し会 月1×10回 Instagram 広告 隔月計5回 写真撮影事業・LINE 相談 随時	指標の検証方法	※左記指標の検証方法を記載してください。 お話し会 実施回数・利用者アンケート Instagram 広告 実施回数・閲覧数・クリック数 LINE 相談 利用者人数 写真撮影事業 申込件数・利用者アンケート

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>社会的 必要性</p>	<p>※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。 スコットランド厚労省の研究結果では、配偶者との死別によるストレスは死亡率を上昇させ医療費を含め日本円に換算して億円単位での財源からの支出増につながる・死別経験者は死別した年とその2年後の就労率が有意に低下することが分かっているという。これは流産死産の経験者にも同等の事が言えるであろう。当事者の精神的身体的なストレスは計り知れないものであるが、実際にその経験をきっかけに、うつ状態となり薬の服用が欠かせなくなる場合や、社会復帰が困難となる場合も少なくない。死別の悲しみは個人の問題でもあり、社会の問題でもあるのだ。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。 既に活動をされている近隣市町のピアサポートと連携して多様なニーズに応えることができる体制を構築する。 沼津市内や周辺の医療機関・沼津市保健センターと連携して、当事者への紹介カードの配布とポスターの掲示をして頂くことで赤ちゃんを亡くしたパパママの一番つらい時の孤独感を軽減する。 広報にお知らせを掲載することで当事者のためのケアが必要であり実施されていることを市民全体に周知するとともに認識されにくい悲しみの存在を認知してもらうことにつなげる。</p>
<p>独創性</p>	<p>※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。 流産・死産・新生児死・乳児死を経験されたご家族のためのケアを目的とした民間支援は沼津市内では他にない。 お見送り前の家族写真の撮影については、本来なら亡骸を写真に収めることは人目をはばかることかもしれないが目の前にいるはずだった我が子に一目でも会いたくなかった時、確かに存在した命・家族であったことを証明してくれる心を癒すツールのひとつになり得ることをご理解いただきたい。この度、市内在住のプロカメラマンにご理解とご協力をいただき実現できる運びとなった。</p>
<p>実現性</p>	<p>※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。 お話し会を定期開催と個別希望の開催で対応することで、「今日は参加してみようかな」と参加者の心身の状態に合わせたタイミングで参加してもらうことができる。 医療機関や保健センターと連携することで、突発的に当事者となった人たちにも支援を利用してもらうことが可能となる。</p>
<p>発展性</p>	<p>※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。 全国で約16,000人の赤ちゃんが死産となり、沼津市でも1年におよそ40組のカップルが自分たちの赤ちゃんとの死産（12週以降、22週以降）・新生児死・乳児死での死別を経験している。（出典：R3年度人口動態調査より）様々な背景により赤ちゃんとの死別を選択せねばならないケースが存在することも承知しているが残念ながら、現代の医療技術を以てしても流産死産をはじめとした赤ちゃんの死はなくなる。よって、流産・死産・新生児死・乳児死を経験されたご家族のためのケアは永続的にニーズが存在する状態であり、悲しみを抱えているご家族のために応えていく必要がある。 当事者同士のコミュニティが形成されることにより、当活動への同志を得られる可能性はあるが正直なところ未知である。 基本的にボランティアでの活動となるためコストを抑えたツールを使用することで、主催者のライフスタイルの変化に対応しながら活動を継続できる設定になっている。写真撮影の仲介料1000円を頂戴し、活動経費に充てていく。</p>

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

流産・死産・新生児死・乳児死のみならず、死別は誰もが経験することである。

介護福祉士としての現場経験を活かし、ペリネイタルロスの枠を超えて福祉の専門学生や看護学生を対象にしたグリーフケアの勉強会や、40代以上の市民を対象にいつかは必ず訪れる配偶者との死別・その後のメンタルヘルスに焦点をあてた悲嘆の勉強会ができればよいなと思い描き始めた段階である。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。